

ちょうしづか新聞 第26号

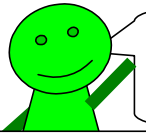
国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳整備事業に伴う試掘調査速報

発行日:2005年1月26日(水曜日) 発行:山梨県埋蔵文化財センター資料普及課資料第2担当

銚子塚古墳で新発見相次ぐ!

まずは「突出部」から説明しましょうね!

銚子塚古墳の発掘調査で新発見が相次いでいます。新聞やテレビに先に出てしまいましたが、この「ちょうしづか新聞」ではよりわかりやすく新発見を説明していきたいと思えます。今回は後円部北側で発見された「突出部(とっしゅつぶ)」について説明しましょう!! では、銚子くんお願いします。



アイアイ~! どうも~
なぜか真冬でも緑色の銚子くんです~。
ワイワイ言うとりますが、さっそく説明に入ります~。(アンガールズ風に読んでね~)

Q1 「突出部」ってどこで見つかったの?

「突出部」は前方後円墳である銚子塚古墳の後円部(「円」の部分)の北側で発見されました。ここはね...後円部の墳頂(てっぺん)にある竪穴式石室の北側の真下にあたる場所なんだ。ふふふ、これはちょっとマニア向け情報!

Q2 「突出部」ってどんなもののなの?

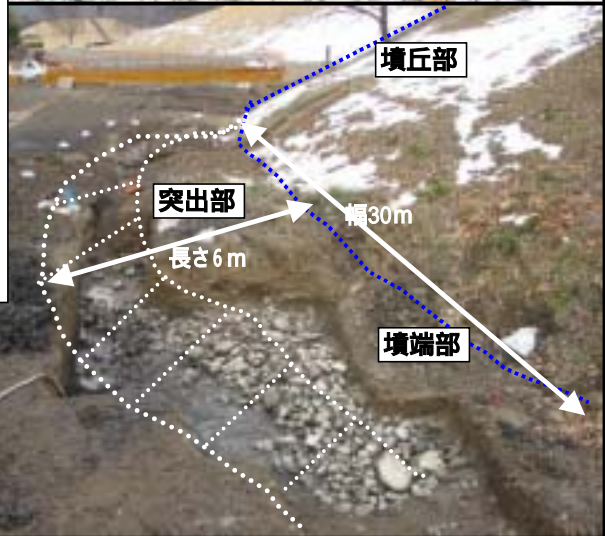
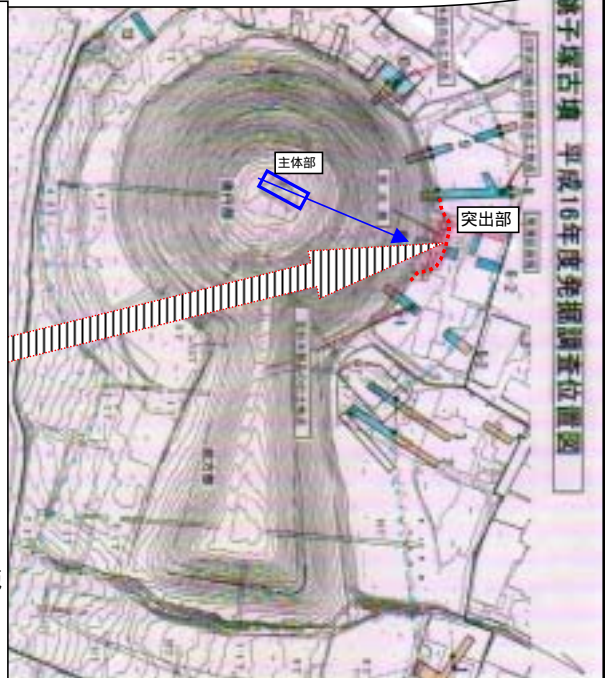
これまで銚子塚古墳の後円部はきれいなまん丸の平面形をしていると考えられてきました。しかし今回の発見によって墳丘の端っこの一部は半円形に突出していることがわかったのです。「突出部」はまるで舞台のように周溝(古墳のまわりの堀)にむかって出っ張った部分で、幅は約30m、出っ張った長さが約6m、周溝底からの高さは1.2m近くあります。

Q3 「突出部」って何のために造られたのかなあ?

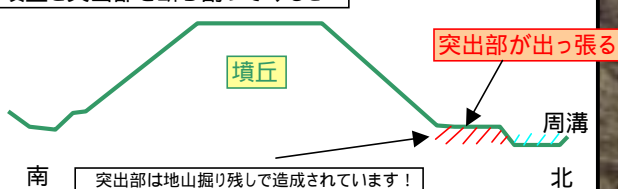
墳丘の端っこに出っ張った部分があるのはこの古墳だけではありません。特に5世紀以降の古墳には「造出(つくりだし)」という舞台のような出っ張り造られることがよく知られています。この「造出」は「古墳のおまつり」や「埋葬」を行なうために造られた場所であることがわかっています。しかし、今回銚子塚古墳で見つかったものは何の目的で造られたのかは今のところわからない施設です。だから、あえて「造出」とは呼ばず、「突出部」と今のところ呼んでいるのです。

Q4 銚子塚古墳で「突出部」が見つかった何がすごいの?

銚子塚古墳は4世紀末に造られた古墳と考えられています。このような4世紀代の古墳、特に東日本の前方後円墳にはこのような付属施設があるとは今まで考えられていなかったのです。このような施設は「畿内(きない)」と呼ばれるヤマト政権の中心地にはあると考えられる施設ですので、銚子塚古墳の造られ方が畿内ととても似ているらしいということが見えてきたことがすごいのです。また、もしこの突出部が「古墳のおまつり」の場であるとなれば、5世紀以降の古墳に造られる「造出」の起源にもなりうる発見なのです。



墳丘と突出部を断ち割ってみると...



【連絡先】山梨県埋蔵文化財センター 資料普及課資料第2担当(森原・森屋)
〒400 1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 電話055 266 3016 ファックス055 266 3882
e-mail morihara-thb@pref.yamanashi.lg.jp

この「ちょうしづか新聞」は山梨県埋蔵文化財センターのホームページでフルカラー版を公開中です。
今まで発行したバックナンバーもすべて閲覧できますので、一度アクセスしてみてください。(アクセス数急増中!!)
1月22日開催の現地見学会資料も閲覧できます。

URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm>